

扇田・神明社境内

表忠碑

越俊道 書 明治廿八年十一月建之 1901年乙未二月

佐藤君(名は) 又次郎 戦没者名簿では又治郎。秋田(県)の人。父は

重治(と)曰(い)つ。姓(せい)母(は)富樫氏(と)の世(よ)。君(くん)人(ひと)と為(な)りは沈毅(ちんぎ)おちついで

物事に動じないにして才幹(さいかん)きちんともりとりける力(ちから)有り。征清役

(日清戦争)に看護手を以て(衛生兵)として、第二師団第五連隊第一

大隊に属し、今年一月、西航(船)で西(西)向(向)か(こ)し、敵地(中国大陸)

に赴(つ)き、威海衛(威海衛)での激戦(げきせん)の時(とき)に当(あ)り、傷兵(けいへい)痍(い)卒(そつ)たり病氣(びやうき)に

なつた兵(へい)を携(た)せ、銃丸(じゆうだん)雨(あめ)のよう(よう)に銃丸(じゆうだん)が飛(と)んで

く(く)の間(ま)に於(お)いて、鞆(たもと)射(や)者(しや)倒(た)れて苦(くる)んで居(ゐ)る人(ひと)を、日(ひ)夜(や)を分

かたす(高)も夜(よ)も護(まも)る。ま(ま)下(した)に(い)つと(い)つと(と)調(い)可(か)きか。

佐藤又次郎 略歴

- 誕生 明治06 (1873) 08.22 本籍 比内町上扇田
 - 12 17 (1884) 10.28 扇田小学校初等科卒 第6期修業3カ年
 - 21 26 (1893) 12.01 歩兵第五連隊に入隊
 - 23 28 (1895) 08.06 台湾基隆陸軍病院で戦病死
- 埋葬 正覚寺 誠実院忠阿道清居士 享年 23歳



表忠碑 越俊道書

佐藤君又次郎秋田人父曰龜治此富樫氏君為人沈毅有才幹征清役以看護手属第二師団第五連隊第一大隊今年一月西航赴敵地當威海衛激戦之時携扶傷兵痍卒於銃丸雨飛之間而鞆射看護不分日夜可謂勇矣八月二日從混成旅団轉向臺灣有艦中罹疫者君惻到看之前後如一不幸感其毒終殺于基隆病院嗚呼可惜哉臨死有一語曰我更入臺灣敢博報效而天不暇日噫亦命也言訖絶矣實八月六日也享年二十三葬扇田先塋娶小出氏生一女襲家故舊胥謀樹石神明祠側以表忠魂銘曰

報效之道 不獨銳兵 盡瘁殫分 何屬榛荆 燕石勒誌 永傳芳名 川口真齋撰 石井學海書

〔裏面〕

明治廿八年 十二月建之

大江松太郎	古川勘太郎
大橋茂機	嶋村金治郎
浦井財治	清宮鶴三郎
山上登良	越俊道
上村柳太郎	清水源七
月居忠朗	園田近一
川井忠道	大塚太郎
佐藤貞雄	斎藤磯治郎
藤田竹四郎	石井源三郎
黒澤忠一郎	斎藤留吉
柳澤甚五郎	赤坂忠助
石川松三郎	

(二十三名)



撰者・川口真齋 書・石井學海

安政4 (1857) 一明治37 (1904) 12月 48歳

十二所の人 出典：十二所町郷土読本 達子勝蔵編纂

2019(H31)01.08 調査	・宮司長岡博司	石碑	タテ108	ヨコ116	巾50cm
2019(H31)02.11 調査記録	・宮越 堯	台石	タテ27	ヨコ135	巾80cm
2019(H31)02.19, 解説	・千葉克一				

八月一日、混成旅団に従い台湾に転向す。その艦中(乗)った軍艦の中(に)罹疫者(伝染病患者)有り、君は惻(こた)ま(ま)じ(ま)るをもつて、ゆき(とき)に之(これ)を看病(しよ)する(その)前後(ぜんご)に(一)の如(ごと)く(み)んな(と)同(お)じ(よ)うに不幸(ふこう)にも其(その)毒(どく)に感(か)ん(じ)感染(かんせん)し、終(つい)に基隆病院(きんくわんびやういん)に歿(は)つ(す)。

嗚呼(ああ)、惜(お)しむ可(べ)き哉(や)。死(し)に臨(りん)み、一語(いちご)有り。曰(い)く、我(われ)更(ま)に臺灣(たいわん)に入(い)り、敢博(かんぱく)思(おも)いきり、ひまな日(ひ)はないに、噫(ああ)亦(また)ある(こ)れども、天(てん)に暇(か)日(じつ)あらず(ひまな日(ひ)はないに)、噫(ああ)亦(また)ある(こ)は休(やす)めとい(い)つ(命(めい)なる也(や)天(てん)の命(めい)令(れい)だ(ら)う(か)い)とい(い)つ(訖(し)絶(ぜつ)す(死(し)す。それ(それ)は)美(う)ま(に)八月(はちがつ)六(む)日(にち)也(なり)享年(こうねん)二十三(じゅうさん)葬(むす)扇田(せんた)の先塋(せんえい)(先祖(せんぞ)の墓(むす)正(ただ)覚(かく)寺(じ)に葬(むす)る。小出(こいで)氏(し)から(妻(めかけ)を(娶(と)り、一(ひと)女(むすめ)を生(う)み、家(いへ)を襲(つ)ぐ(継(つ)ぐ。)

故(ゆゑ)に旧(ふる)骨(こつ)ち(な)みのある人(ひと)み(み)んな(謀(ま)り(相談(さうだん)して、石(いし)碑(ひ)を神明(しんめい)祠(ひら)扇田(せんた)神明社(しんめいしゃ)側(そば)に樹(た)て、以(もつ)つ(その)忠魂(ちゆうこん)を表(あらわ)す。銘(めい)して曰(い)く、へ。)

報效(ほうこう)之道(のち) 国(くに)のため(ため)に死(し)す仕方(しかた)は

不(ふ)独(た)銳(えい)兵(へい) 独(ひと)り銳(えい)兵(へい)にあら(あ)らず(銃(じゆう)で戦(せん)つ兵(へい)士(し)だけではない)

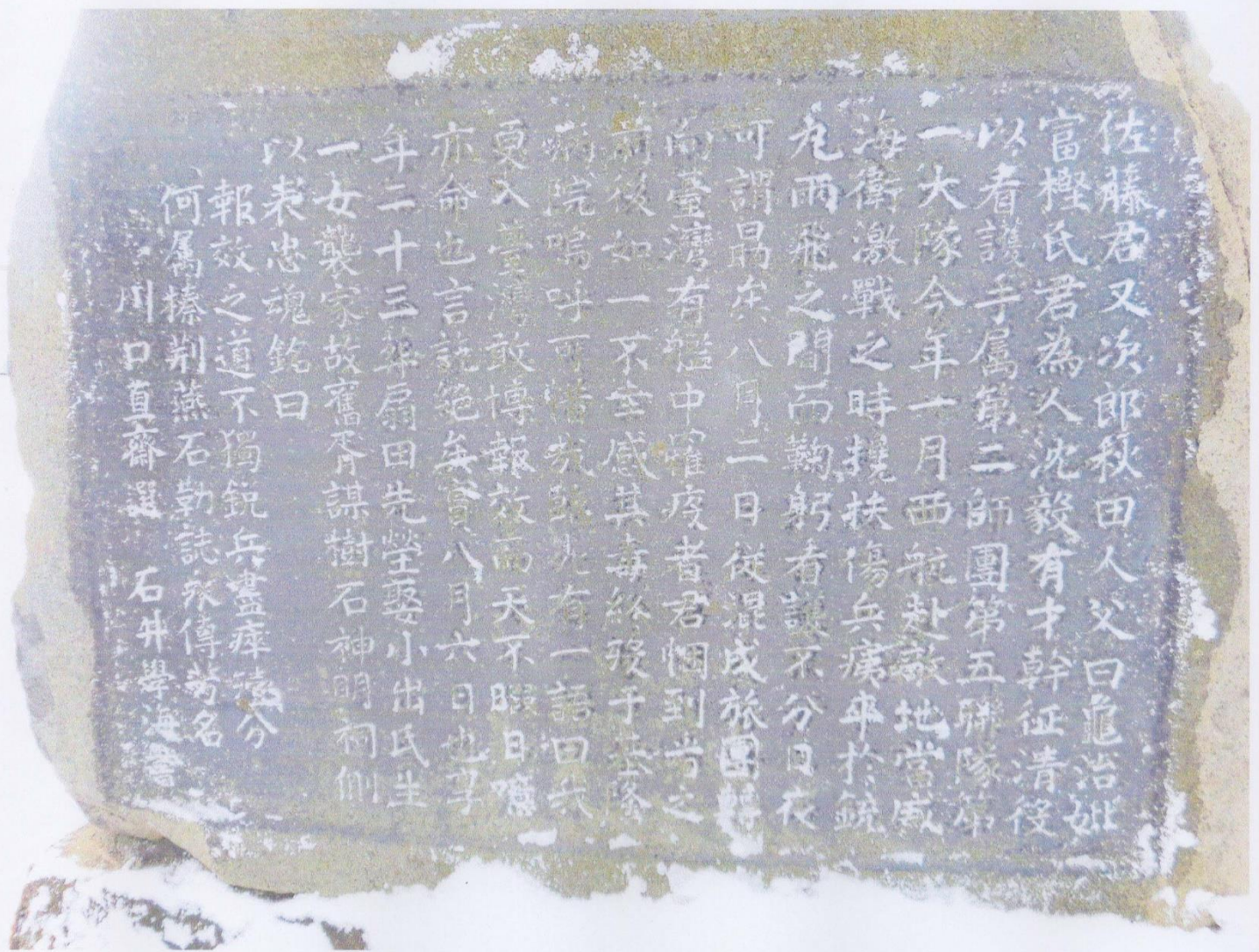
尽(じん)瘁(さい)殫(たん)分(ぶん) 尽(じん)瘁(さい)して分(ぶん)に殫(たん)れる(力(ちから)を尽(つく)す、看護手(かんごて)として死(し)す)

何(なに)屬(しよ)榛(しん)荆(けい) 何(なに)ぞ榛(しん)荆(けい) (い(いは)らな(な)ど(ど)のや(や)び(び)に属(ぞく)させ(せ)ん。(これを(これを)何(なに)で放(はな)つてお(お)かれ(れ)よう(よう))

燕(えん)石(せき)勒(りやく)誌(し) 燕(えん)石(せき)立(た)派(は)な石(いし)では(では)ない(に)勒(りやく)誌(し)文字(もじ)を刻(き)み記(き)す(し)

永(えい)伝(でん)芳(ほう)名(な) 永(えい)く芳(ほう)名(な)を伝(でん)え(え)ん

川口(かわぐち)真(ま)齋(さい)撰(せん) 石井(いし)學(がく)海(かい)書(しよ)



佐藤君又次郎秋田人父曰龜治姓
 富樫氏君為人沈毅有才幹征清役
 以看護手屬第二師團第五聯隊第
 一大隊今年一月西航赴敵地當威
 海衛激戰之時攙扶傷兵瘡平於銃
 丸雨飛之間而鞠躬看護不分日夜
 可謂昂矣八月二日從混成旅團轉
 向臺灣有艦中罹疫者君惻到者之
 前後如一不空感其毒絲歿于臺隆
 病院嗚呼可惜哉臨先有一語曰我
 夏入臺灣敢博報效而天不暇日噫
 亦命也言訖絕矣會八月六日也享
 年二十三葬扇田先塋娶小出氏生
 一女襲家故舊齊謀樹石神明祠側
 以表忠魂銘曰
 報效之道不獨銳兵盡瘁殫分
 何屬擽荆蕪石勒誌疾傳芳名
 川口直齋選 石井學海書

※上記石碑の文字の解読のため、降雪時、宮司が手作業で文字に雪を埋め込みました。